

令和6年度 第2回ミライニ運営評価審議会 【概要】

日 時	令和7年2月20日（木）午後1時30分～3時00分
場 所	総合文化センター412号室
出席者	委員9名（欠席1名） 事務局 酒田市 社会教育課長ほか3名 ミライニ 所長ほか5名 傍聴者1名
<p>1 開 会</p> <p>2 課長あいさつ</p> <p>3 報告・協議事項</p> <p>冒頭、前回の審議会でもいただいた意見について、事務局から対応状況を回答。</p> <p>(1) 令和7年度事業計画について</p> <p>○委員</p> <p>令和7年度予算額について、昨年度と比較して増減はあるのか？特に歳入（指定管理料）について伺いたい。</p> <p>○事務局</p> <p>昨年と比較して指定管理料は増えている（R6：244,944,000円、R7：247,152,000円、2,208,000円増加）。内訳として、図書購入費は増減なく毎年25,600,000円。提案事業経費は令和6年度2,000,000円から令和7年度3,000,000円に増額した。デジタルアーカイブ事業の本格的なスタートやイベント開催時の保険料等の経費の増加、パソコン等のリース料の増加が要因。</p> <p>○事務局</p> <p>補足として、指定管理料は包括協定で各年度の金額を定めている。固定費以外にも人件費（昇給）の増加も見込み、市と指定管理者とで協議の上で設定している。</p> <p>○委員</p> <p>FUN FAN CLUBの記載について、スペルやスペースなど統一した方が良い。</p>	

イベントの専用アカウントを作るという取り組みは非常に良いことだと思う。

ローカルプロモーションはどこに行くか予定はあるか？

○事務局

予定の段階であるが、酒田とも縁が深い西郷隆盛のつながりで鹿児島県に行く予定である。同県内には図書館流通センターの指定管理館があり、お互いに行き来しようと考えている。

○委員

図書館を使った調べる学習コンクールについて、全国コンクールへの出品や調べる学習活動賞の受賞など大変素晴らしい結果になった。今年度の活動をベースに、来年度は中学生部門も開催するとのことで、子どもたちがチャレンジする機会が増え、ますます楽しみになる。

○委員

一般利用者からの視点として、様々な情報が各所に掲示されていて、資料の収集がしやすい。館内の雰囲気がとても明るく、いつ行っても温かみと自由な雰囲気を感じる。また、個々の利用に応じて活用できる場所である。

オープン当初は本の貸出や勉強スペースの利用で学生が多かったが、最近イベントなどの取り組みの成果として利用者の年齢層が多様に変化している。特にここ1年間は子ども連れの家族での利用が多いと感じる。父親の姿が増えており、何度も訪れたいくなるスペースとして定着してきていると思われる。

家族で参加できる企画が子ども連れでの来館に繋がり、読書活動の推進や家庭での会話の話題になるという相乗効果が生まれていると思う。

○委員

観光案内所について、通年事業の庄内まちナビカードの設置や10月の羽越本線全線開通100周年記念事業、1月の寒ダラ祭りのデジタルスタンプラリーなど、県で実施している事業にご協力いただき、大変ありがたい。

FUN FAN CLUB やクルーズ船の対応において、高校生や大学生からボランティアとして協力いただいているという話があった。県の観光審議会では、観光業界においても人手不足が進んでおり、業界に入る若い方への教育等が必要ではないかという意見があった。若いうちから観光業界に関わりを持つことは、本当に大事な取り組みであると思うため、ぜひ今後も継続してもらいたい。

○委員

季刊の絵本だよりについて、園の中に掲示しており、保護者からの反響が大きい。また、イベントの案内も同様に掲示しており、「今度ミライニに行ってみよ

う」など、「子どもや孫との会話が増えている」との声も聞く。令和7年度事業スキームのテーマにあるとおり、ミライニでは様々なイベントを企画しており、職員もお楽しみにしている。

絵本作家を呼んで行うワークショップでは、本づくりを体験できると聞いている。園では絵本の貸出を行っているが、絵本も電子書籍が中心になりつつあり、親子で一緒に本を読む機会が少なくなっていると感じている。読書機会の創出が期待される本づくりワークショップは楽しみである。

#### ○委員

イベントが多様化しており、ますますミライニに活気が溢れ、素晴らしいと思う。

事業計画書の中の「高齢者及び障がい者へのサービス」について、高齢者や障がいを持つ方々への配慮の中で具体的にはどのような対応を行っているか。

#### ○事務局

イベントの際の配慮としては、例えば映画鑑賞会の際に合理的配慮のもとで申し出があれば字幕を付ける、スピーカーの近くの席へ移動していただくなどの対応をスタッフ間で共有している。先日、対面読書について問い合わせがあった。酒田市立図書館ではまだ実施していないサービスのため、県立図書館から助言をいただきながら提供していきたい。

#### ○委員

「ボランティアの活動支援」について、色々な場所で活動しているボランティアから、自分たちの活動に行き詰っているという話を聞く。対話をしながら適切な支援を行うと記載があるが、具体的にはどのような支援を考えているか。

#### ○事務局

読み聞かせのボランティアは現在2団体から活動していただいております、対話の機会を設けている。しかし、全ての意見や要望に応えることはできないため、今後も対話を続けていきたい。

ミライニシアターでは、ボランティア団体と一緒に映画上映会の企画や運営を行っている。イブニングコンサートについては、市民団体の方が開催しており、会場の設置や宣伝などの協議を行うことで支援している。

#### ○委員

子どもも大人も本を読む方が少なくなっている中で、本に親しむ機会を作ること大事だと思う。本の森ミライニ事業では、乳幼児の段階からベビーハグ、ブックスタートなどに取り組んでおり、素晴らしいと思う。子どもが図書館に行きた

いと思えば家族も足を運ぶ。子どもの頃の楽しい思い出は歳を重ねても残る。

読書活動のみならず、市民活動にも広がりが見られ、若者が、ミライニがあるから酒田に戻って来ようと思うような運営を継続してもらいたい。

図書館経営は収益事業ではないため、指定管理者の努力によって収入を得ることができない。ぜひ酒田市からは継続して予算を措置してもらいたい。

○委員

市内のもう1つの観光案内所である山居倉庫の案内所が2月28日で業務を一旦終了する。旧商業高校跡地のいろは蔵パークについては3月21日10時にオープン予定だが、山居倉庫の案内所をいつまで開設するかは未定である。売店と工芸館は山居倉庫から完全に撤退する。酒田駅前と山居倉庫の2つの案内所で引き続き密接な連携を取りながら進めていきたい。

○委員

観光案内所に対して、いろは蔵パークに関する問い合わせが増えると思うため、情報収集と発信に気を付けてもらいたい。

(2) 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の策定について

○委員

前回の計画策定時は、どのような審議会で検討したのか？

○事務局

図書館協議会で審議していただいていた。ミライニへの移転に際して図書館協議会からミライニ運営評価審議会に機能を引き継ぎ、委員の構成も継続している。

○委員

アンケート調査の項目について、子どもに対しては「大人の本で何が読みたいか?」、大人に対しては「子どもにどのような本を読んで欲しいか?」という質問の追加を検討して欲しい。

○委員

子ども読書活動推進計画は、0歳から18歳までの子どもが対象だが、アンケートの対象は小学生と中学生のため、未就学児と高校生の実態が見えない。この計画を推進するためには、福祉サイドとの連携が非常に大きな課題になるが、市としてどう考えているか？

○事務局

小学生と中学生へのアンケートは定点観測として重要で、傾向を把握するため

に行うものである。未就学児については健康課と連携して現状の把握に努めたい。

○委員

酒田市の場合、未就学児と関りがある事業はブックスタートのみである。他の地域では、妊娠中の母親と家族を対象にしたプレママ、プレパパの研修会などを行っており、赤ちゃんがお腹の中にいるときから読み聞かせを啓発する研修会を開いている。高校生と市の関わりは難しい課題だと思うが、高校生の本や読書に関するボランティア活動の状況などはミライニでも把握していると思われる。アンケートに頼らずとも実態の把握の方法は色々あるため、何か1つでも新たに計画の中に盛り込むことができると思う。

高校生の現況として、不読率が高くなっている実態がある。山形県でも高校生への取り組みに注目して第4次計画が作られている。実態調査を丁寧に行うことで、計画の方に反映できるのではないかと考える。ミライニの運営計画の中から子ども読書に関係があるものを抜き出してまとめても良いと思う。

○委員

改善点として、今の審議委員に加えて、子ども読書に関係の方を入れることも検討してもらいたい。

○委員

策定スケジュールの中のワークショップはどのようなものか？

○事務局

小中学校の図書委員を対象にしたものと図書専門員を対象にしたものを考えている。当事者の声を聴く機会にしたい。

○委員

アンケートの内容について、中学生の保護者に対して「お子さんに読み聞かせしていますか」という質問には違和感がある。中学生の保護者向けのアンケートとして内容や書き方を変えた方が良いと思う。

(3) 酒田市立中央図書館駅東駐車場について

質疑なし

(4) 図書館を使った調べる学習活動賞の受賞について

○委員

受賞した作品の活用が大事である。各学校への巡回や展示を行い、多くの人の

目に触れさせることで来年度のコンクールにつなげてほしい。

○事務局

館内で展示を行っており、作品集の作成と配布も考えている。

(5) その他

○委員

学習や読書の意欲が高い子どもでも、本と出合う仕掛けを大人が作らなければ目的の本に辿り着くことが出来ないため、子どもと本の出会いの機会を作ってもらいたい。具体的には、子どもが大人向けの本を読むことが出来る環境の整備や移動図書館などが考えられる。

4 閉 会

以上